

敬 愛

甲斐市立敷島中学校
学校だより 号 外
平成29年 9月11日(月)
発行 長田 靖

第55回年輪祭によせて…

今年は学校創立70周年、年輪祭もきりの良い55回目を迎えます。連日、取組に励む生徒たちの姿が見られます。若者のエネルギーがあふれる9月上旬の敷中です。



【episode 1】

今年が55回目ということは…、さかのぼって計算すると、第1回目の年輪祭は1963(昭和38)年ということになります。敷中にとって、この年がどんな年であったかを、学校に関わる出来事を綴る「沿革誌」という記録を紐解いてみたら…。

その前年の1962(昭和37)年、当時の清川中学校と睦沢中学校を統合した敷島中に、新たに吉沢中学校が統合されたのがこの年でした。1954(昭和29)年に誕生した敷島町(当時)の、町内のすべての中学校が完全統合された年だったのです。第1回学園祭は、10月1日～3日の3日間(文化祭、運動会、強歩大会)にわたって行われたとあります。

【episode 2】

学園祭が年輪祭と呼ばれるようになったのは、いつからなのか…? 何度読み返しても、「沿革誌」にはそのことに関する記述はありません。

次に頼ったのは学校の図書館です。ここには年輪誌のバックナンバーがあるはず、生徒会誌に何か載っているのでは…と期待するも、残念ながら何もなし。

手がかりを求めて開いたのは、校長室に保管されている卒業アルバムです。残されている1960(昭和35)年度のものから順に見ていくと、1971(昭和46)年の学園祭スナップを紹介するページに、あっさりとした一行「今年から‘年輪祭’と改めた…」(-_-) この年は確か…。

【episode 3】

夏休み終盤のことです。生徒会顧問の清水先生から「年輪祭のプログラムに載せる、校長挨拶文を書いてほしい」と依頼され、『…今年のテーマである‘輪～55回目の年輪を刻もう’の「輪」の読みは「わ」、「わ」は「和」に通じる。全校生徒が輪になって、さらに強い和を創っていきましょう…』と書きました。

書きながら、このフレーズはどこかで目にしたような、耳にしたことがあるような…、そう感じましたが、何なのだろう?

私が敷中生の時も、学園祭は「年輪祭」だった記憶があります。それもそのはず、学園祭が年輪祭と呼ばれることになった1971(昭和46)年、私は敷中1年生です…(納得)。

校長挨拶文でよみがえったフレーズは、年輪の「輪」と、団結の「和」をかけ合わせた、かつての年輪祭テーマだったか、生徒会のスローガンだったのか…。「**輪になれ、和となれ**」から。

オマケ 近隣の中学校は… ・翔龍祭(竜王中59回目) ・緑水祭(玉幡中34回目)
・紫龍祭(竜北中26回目) ・誠樹祭(双葉中54回目) ・若麦祭(押原中53回目) など。

